



## 《女川原子力発電所2号機の再稼働に向けて全力で取り組んでまいります》

新年を迎え、地域の皆さまにおかれましては益々ご健勝のことと存じます。

さて、女川原子力発電所では、現在、2号機の安全対策として「津波から守るための防潮堤」「電源を確保するためのガスタービン発電設備」「原子燃料を冷やすための淡水貯水槽」「火災防護対策」などの各種工事とともに、運転再開を見据え、さまざまな事態を想定した訓練を繰り返し実施することによる発電所員のスキル向上や緊急時における体制整備などを進めております。一方、今年2月を目指して取り組んでまいりました安全対策工事の完了時期を改めて精査する状況になったことに関しまして重く受け止めております。

当発電所といたしましては、引き続き、安全最優先で、「ONE TEAM ONAGAWA～心ひとつに～」を合言葉に発電所で働く一人ひとりが一致団結し、再稼働に向けた準備を着実に進めてまいります。

また、発電所の運営にあたりましては、地域の皆さまのご理解が何よりも重要であると考えておりますので、今後とも丁寧な情報発信と地域の皆さまとのコミュニケーションの充実に努め、より信頼いただける発電所となるよう努めてまいります。

本年もどうぞよろしくお願いいたします。



女川原子力発電所長  
**阿部 正信**

### 津波から守る

防潮堤



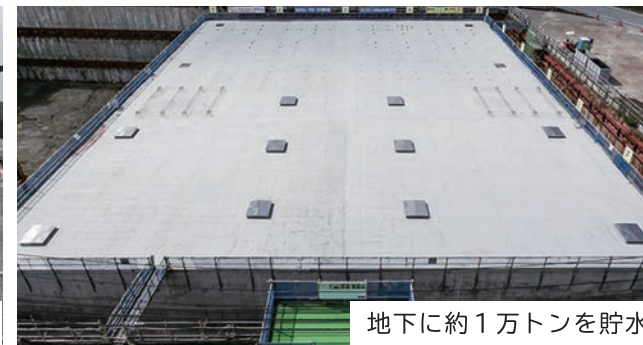
### 電源を確保する

ガスタービン発電設備



### 原子燃料を冷やす

淡水貯水槽



### 訓練の充実・強化

対策本部訓練



## 女川原子力発電所2号機における安全対策工事完了時期の精査状況について

女川原子力発電所2号機の安全対策工事について、2024年2月の工事完了を目指しておりましたが、現在実施している「火災防護対策工事」の工期が工事物量の増加により遅れる見通しとなりました。このため、安全対策工事完了時期の精査を進めております。現時点においては数カ月程度の遅れを見込んでおりますが、地域の皆さまへは精査が終了次第、改めてお知らせいたします。

また、発電を開始する「再稼働」の時期についても変更となることから、見直し後の安全対策工事完了時期と併せてお知らせいたします。

本件に関する詳細は  
当社ホームページに  
掲載しております



## 《地域の皆さまからのご意見をお聴きしました》

11月30日から12月18日にかけて、地域の皆さまへ発電所の状況をお知らせしながら、ご意見をお聴きする対話活動「こんにちは訪問」を実施しました。

1994年の開始から45回目となる今回は、発電所員延べ約200名が女川町と石巻市牡鹿半島部の約3,700戸を訪問し、女川原子力発電所2号機の安全対策工事の状況などについて説明しました。

地域の皆さまからは「安全最優先で工事を進めてほしい」「対面の説明なので内容が理解しやすい。引き続きこまめな情報提供をお願いしたい」などのご意見をいただきました。

皆さまからいただいた貴重なご意見は今後の発電所運営に生かしてまいります。



発電所の状況をお知らせする発電所員

## 《ミニ四駆女川CUPを開催しました》

12月16日、女川町まちなか交流館において、ミニ四駆女川CUP(主催:東北電力(株)女川原子力発電所)を開催しました。

大会には100名がエントリーし「オープンクラス(全年齢対象)」と「ジュニアクラス(小学生以下対象)」に分かれて白熱のレースが繰り広げられました。今後も地域の皆さまにお楽しみいただけるイベントを企画・開催してまいります。



会場には約200名の観客が来場



大会で使用した全長238mの巨大コース

## 《女川原子力発電所2号機における特定重大事故等対処施設に係る「設計及び工事計画認可申請書」を提出しました》

当社は、12月14日、女川原子力発電所2号機における特定重大事故等対処施設<sup>※1</sup>の詳細設計に係る「設計及び工事計画認可申請書<sup>※2</sup>」を原子力規制委員会へ提出しました。今後の原子力規制委員会の審査に適切に対応していくとともに、引き続き、原子力発電所のさらなる安全レベル向上の取り組みを着実に進めてまいります。

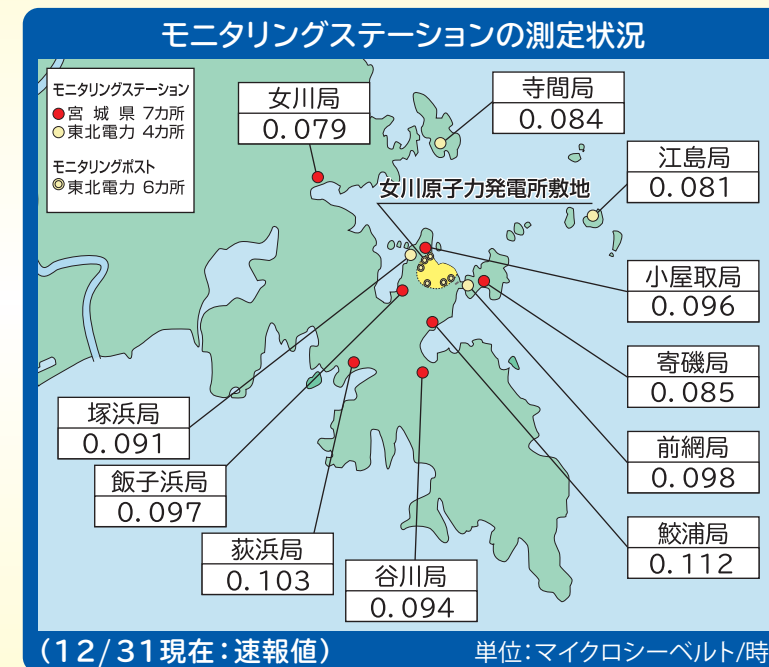
※1 原子炉建屋への故意による大型航空機の衝突などのテロリズムにより、炉心に著しい損傷が発生するおそれがある場合などにおいて、原子炉格納容器の破損を防ぎ、放射性物質の放出を抑制するため、遠隔で原子炉圧力容器内の減圧や原子炉格納容器内の冷却などを行う施設。新規基準において本体施設の設置などに関わる工事計画認可から5年以内(女川2号機の場合は2026年12月22日まで)の設置が求められている

※2 申請書は複数回に分割して提出することとしており、今回の申請書は施設の建屋および土木構造物などに関するもの

## 《女川原子力発電所周辺の放射線量は安定しています》

女川原子力発電所周辺の放射線はモニタリングポスト<sup>※1</sup>やモニタリングステーション<sup>※2</sup>で測定・監視しており、その測定値は宮城県および当社ホームページで公開しています。

発電所敷地内に設置してあるモニタリングポストの2023年12月31日の測定値は、最大で0.056マイクロシーベルト/時程度で安定しており、健康に影響を与えるレベルではありません。



(参考)モニタリングポストの最小値と最大値<sup>※3</sup>

〈東北地方太平洋沖地震発生日〉	測定値 (マイクロシーベルト/時)
2011年3月11日	0.027~0.064
〈地震発生後最大値〉	
2011年3月13日	1.8~21 <sup>※4</sup>
〈地震発生から2年と至近2年の(4/1)値および前月値〉	
2012年4月1日	0.063~0.098
2013年4月1日	0.055~0.076
〈 〉	〈 〉
2022年4月1日	0.033~0.045
2023年4月1日	0.034~0.046
2023年12月1日	0.034~0.046
2023年12月31日	0.034~0.056

単位:マイクロシーベルト/時

※1 モニタリングポストは発電所敷地周辺の環境放射線を測定しています。女川原子力発電所の敷地境界には6基のモニタリングポストが設置されています。

※2 モニタリングステーションは環境放射線に加えて気象データを測定しています。

※3 モニタリングポストの測定値は、宇宙線(宇宙空間を飛び交う高エネルギーの放射線)の影響分が含まれないため、モニタリングステーションの測定値より0.02~0.04マイクロシーベルト/時程度低い測定値となっています。

※4 東京電力福島第一原子力発電所からの放射性物質の放出に伴い測定されたもので、測定された時間は約10分間です。

